

伊野川から忠別川までの地名②5

イペタムとアサムサクト(下)

前回は、近江正一著『伝説の旭川及其附近』(昭和六年刊行)の「イペタムと水神の話」を紹介した。

近江正一は、「イペタムと水神の話」を、「ウイペケル(ウエペケレ)編」の冒頭に紹介している。「ウエペケレ(uep-eker)」は、散文の物語である。他方、

田村すず子著『アイヌ語沙流方言辞典』の「タム(tam 刀)」の項では、「イペタムipe-tam—ユーカラの中に出て来る、空中を飛んできて人を切る恐ろしい刀」と記載されていて、ユーカラに分類されている。

また、萱野茂著『アイヌ語辞典』の「イペタム(ipe-tam 人食い刀)」の項では、「イペ食べる、タム刀↓一度抜いたら血をみなければ納まらな

い刀が二風谷近くのアイヌの家にもあり、イペタムと呼ばれていた。持ち主はその刀で自害した。後にその末裔が私の姉と結婚した。」とある。

右のように、「イペタム(ipe-tam 物を食う・刀)伝説」は、旭川だけではなく、沙流川流域にもあり、しかもユーカラに分類されていることが分かる。

前回でも述べた、永田方正は、明治二十三年に旭川を調査したが、その時は、「イペタム(ipe-tam 物を食う・刀)伝説」を聞いていなかった。そのため、「アサムサクト(asam-sak-to 底を欠く・沼)」については、明治二十四年刊行の『北海道蝦夷語地名解』では、次のように書いた。また、当時はこの沼から小川が流れていたことも判明する。【註・トンニ(tunni)と「ト」の表記については、当連載の①⑤を参照下さい】

写真① 現在のイペタムスマ



写真② 「市史伝説 底無沼之跡」碑



トンニ・ポクトー(tunni-pok-to 柏林・の下の沼) トー・ポイエ(fo-fuye 沼潰) トンニ・ポクトー」と云フ沼潰レテ小川トナリタレドモ流通セス、僅カノ坏堀川ナリ。そして、前回は紹介したが、「イペタム(ipe-tam 物を食う・刀)」については、次のように記録した。

イベタムシヌム(ibe-tam-shinuma 食刀岩)「アイヌ」ノ小刀ニ似タル大岩アリ。高凡二丈(約六呎)許、故二名ク。食刀トハ切レノ好キヲ云フ。

究家の斎藤讓三氏が、立岩山チャシ発見の契機になった伝説と附記して、昭和六年に近江正一は、『伝説の旭川及其附近』の著書で、「イペタムと水神の話」と題して、「イペタム伝説」を初めて紹介した。

昭和三十年に更科源蔵著『北海道伝説集・アイヌ篇』に、近江正一『伝説の旭川及其附近』からの引用と明記した上で、「神居村の人食刀岩」とのタイトルで、「イペタム(ipe-tam 物を食う・刀)伝説」が、改稿転載された。

昭和三十四年に、『旭川市史第一巻』で、「底無沼と妖刀(神居)」のタイトルで、更科源蔵著『北海道伝説集』と出典を明記して、「イペタム(ipe-tam 物を食う・刀)伝説」が掲載され、周知されることとなった。

写真①は、現在の「イペタムスマ(ipe-tam-shinuma 物を食う・刀・岩)」で、「立岩」と呼ばれている。写真②は、「アサムサクト(asam-sak-to 底を欠く・沼)」の中央付近にある、「市史伝説—底無沼之跡」碑である。

その他、昨年の「日本遺産」認定記念の「立岩・人喰い刀岩」表示板がある。また、同地は、「水神龍王神社」「立岩四国八十八ヶ所霊場」などの和人の信仰の地ともなっている。

(アイヌ語地名研究会幹事)

※毎月第1週号に掲載します

断章 旭川のアイヌ語地名研究

136

高橋 基

